



2019年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2018年11月7日

上場会社名 株式会社インプレスホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 9479 URL <http://impressholdings.com/>
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)唐島 夏生
 問合せ先責任者 (役職名)取締役/執行役員CFO (氏名)山手 章弘 (TEL)03-6837-5000(代)
 四半期報告書提出予定日 2018年11月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年3月期第2四半期の連結業績(2018年4月1日~2018年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第2四半期	6,074	5.0	171	0.6	194	△12.4	361	108.9
2018年3月期第2四半期	5,782	2.0	170	27.2	221	36.9	173	58.2

(注) 包括利益 2019年3月期第2四半期 152百万円 (△42.5%) 2018年3月期第2四半期 266百万円 (211.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第2四半期	10.82	—
2018年3月期第2四半期	5.19	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年3月期第2四半期	12,549	7,731	61.5
2018年3月期	12,788	7,670	59.8

(参考) 自己資本 2019年3月期第2四半期 7,722百万円 2018年3月期 7,647百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	—	—	—	2.50	2.50
2019年3月期	—	—	—	—	—
2019年3月期(予想)	—	—	—	2.50	2.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年3月期の連結業績予想(2018年4月1日~2019年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭	
通期	12,150	2.1	200	16.3	350	△19.9	10.49

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名)ー、除外 一社(社名)ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P.13「四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2019年3月期2Q	37,371,500株	2018年3月期	37,371,500株
2019年3月期2Q	3,972,819株	2018年3月期	4,011,986株
2019年3月期2Q	33,427,844株	2018年3月期2Q	33,362,942株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実績の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	6
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	13
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	13
(セグメント情報等)	13
(追加情報)	14

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、事業セグメント区分の変更及び主要な関係会社の異動はありませんが、事業区分を変更しております。

当社は、有価証券の取引等の規制に関する内閣府令第49条第2項に規定する特定上場会社等に該当し、インサイダー取引規制の重要事実の軽微基準については連結ベースの数値に基づいて判断することとなります。

事業セグメント区分	主要な事業区分		主要な事業内容	主要な会社
IT (IT分野に関するコンテンツ事業及びプラットフォーム事業)	コンテンツ事業	メディア &サービス	出版・電子出版、ネットメディア・サービス、ターゲットメディア等	(株)インプレス (株)IAD 英普麗斯(北京)科技有限公司 Impress Group Singapore Pte. Ltd.
		ソリューション	企業・自治体向けSP・PRツール及びWebサイト等の受託制作	
	プラットフォーム事業		出版流通プラットフォームの開発・運営等	
音楽 (音楽分野に関するコンテンツ事業及びプラットフォーム事業)	コンテンツ事業	メディア &サービス	出版・電子出版、ネットメディア・サービス等	(株)リットーミュージック
		ソリューション	企業・自治体向けSP・PRツール及びWebサイト等の受託制作	
	プラットフォーム事業		ECプラットフォームの開発・運営等	
デザイン (デザイン分野に関するコンテンツ事業)	コンテンツ事業	メディア &サービス	出版・電子出版、ネットメディア・サービス等	(株)エムディエヌコーポレーション
山岳・自然 (山岳・自然分野に関するコンテンツ事業)	コンテンツ事業	メディア &サービス	出版・電子出版、ネットメディア・サービス等	(株)山と溪谷社
		ソリューション	企業・自治体向けSP・PRツール及びWebサイト等の受託制作	
モバイルサービス (モバイル関連のコンテンツ事業及びプラットフォーム事業)	コンテンツ事業	メディア &サービス	電子出版、ネットメディア・サービス等	(株)ICE
		ソリューション	企業・自治体向けSP・PRツール及びWebサイト等の受託制作	
	プラットフォーム事業		電子コミックプラットフォームの開発・運営等	
その他			出版・電子出版、企業・自治体向けSP・PRツール及びWebサイト等の受託制作、出版流通プラットフォームの開発・運営等	(株)近代科学社 (株)インプレスR&D (株)クリエイターズギルド (株)天夢人 Impress Business Development(同)
全社			グループ経営・財務戦略の策定 グループ各社の経営管理、販売/物流管理	(株)インプレスホールディングス(当社) (株)Impress Professional Works

(当第2四半期連結累計期間の業績全般の概況)

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものです。

また、文中の事業セグメントの売上高は、セグメント間の内部振替高を含んでおり、セグメント損益は、営業損益をベースとしております。

なお、事業セグメント区分の変更はありませんが、第1四半期連結会計期間において事業区分を変更し、前第2四半期連結累計期間については組替えを行っております。

当第2四半期連結累計期間につきましては、大型季節商品である年賀状ムックの一部の刊行を従来の第2四半期連結会計期間から第3四半期連結会計期間に変更した影響やアジア市場向けSP（セールスプロモーション）の受託案件の減少、加えて雑誌事業の減収等があったものの、新刊書籍や電子出版の販売増加、IT分野のビジネス向けイベント・セミナーの好調な推移に加え、第1四半期連結会計期間におきまして連結の範囲に含めました㈱天夢人による売上高の増加等により、コンテンツ事業は増収となりました。プラットフォーム事業につきましては、コンテンツホルダーとの協業によるデジタルコミック等の販売プラットフォーム事業が好調に推移し、著書向けPOD（プリントオンデマンド）出版サービスの登録者数の拡大や楽器マーケットプレイス「デジマート」における楽器店からの決済サービス収入の増加等により、増収となりました。

これらの結果、売上高は、前年同期（5,782百万円）に比べ291百万円増加し、6,074百万円となりました。営業利益につきましては、増収も人件費や地代家賃等の販売管理費の増加により前年同期（170百万円）とほぼ同水準の171百万円となりました。経常利益につきましては、前期に発生した貸倒引当金戻入額の影響等により、前年同期（221百万円）に比べ27百万円減少し、194百万円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、保有する投資有価証券の売却による投資有価証券売却益の計上等により、前年同期（173百万円）に比べ188百万円増加し、361百万円となりました。

(セグメント別の概況)

① IT

ITセグメントにつきましては、アジア市場向けを中心にSPの受託案件の減少や刊行点数の減少に加えて、大型季節商品である年賀状ムックの刊行を第3四半期連結会計期間に変更した影響はあったものの、ビジネス関連書等の既刊書籍の販売増加や、主力のデジタル総合ニュースサービス「Impress Watch」（<http://www.watch.impress.co.jp/>）等の広告収入の増加やターゲットメディアと連携したビジネスセミナー等の好調な推移等により、コンテンツ事業は増収となりました。

また、パートナー出版社へ出版・電子出版の販売プラットフォームの提供を行うプラットフォーム事業につきましても、パートナー出版社にヒット作があったことで手数料収入が増加し、増収となりました。

以上により、「IT」の売上高は、前年同期（2,426百万円）比1.9%増の2,472百万円となりました。セグメント利益は、増収と収益性の改善により、前年同期（58百万円）と比べ47百万円増加し、105百万円となりました。

② 音楽

音楽セグメントにつきましては、アーティスト関連の受託売上の増加やガールズバンドプロジェクト「バンドリ」とのコラボ企画におけるフェア開催等による既刊書籍の販売増加はあったものの、一部の書籍レーベルを「その他」セグメントへ事業移管した影響等による書籍の販売減少、また雑誌事業が減収となったことにより、コンテンツ事業は減収となりました。

また、プラットフォーム事業につきましては、楽器マーケットプレイス「デジマート」（<http://www.digimart.net/>）における楽器店からの決済サービス収入等の増加で増収となりました。

以上により、「音楽」の売上高は、前年同期（886百万円）比4.4%減の847百万円となりました。セグメント利益では、減収を収益性の改善と移管に伴う販管費の削減で補い、前年同期（42百万円の損失）と比べ8百万円損失が減少し、34百万円の損失となりました。

③ デザイン

デザインセグメントにつきましては、刊行点数の増加と堅調な出荷により新刊書籍及び電子出版は販売増加となったものの、ヒット作のあった前期と比べ既刊書籍の販売が減少し、加えて大型季節商品である年賀状ムックの刊行を第3四半期連結会計期間に変更した影響や雑誌事業の減収等により、コンテンツ事業は減収となりました。

以上により、「デザイン」の売上高は、前年同期（510百万円）比10.6%減の456百万円となりました。セグメント利益では、減収と収益性の低下により、前年同期（73百万円）と比べ51百万円減少し、21百万円となりました。

④ 山岳・自然

山岳・自然セグメントにつきましては、大型季節商品であるカレンダーの販売効率の改善を目的に製造数を調整し出荷が減少したことに加えて、広告収入や自治体等の受託案件が減収となったものの、新刊書籍及び電子出版の販売が増加、フィギュアスケートを扱ったムックや2018年7月に創刊1000号となった雑誌『山と溪谷』の販売が好調に推移し、コンテンツ事業は増収となりました。

以上により、「山岳・自然」の売上高は、前年同期（1,023百万円）比3.3%増の1,057百万円となりました。セグメント利益では、増収するも収益性の低下により、前年同期（124百万円）と比べ6百万円減少し、117百万円となりました。

⑤ モバイルサービス

モバイルサービスセグメントにつきましては、英語教材の販売やデジタルファーストの電子書籍等の自社メディア事業の拡大により、コンテンツ事業は増収となりました。

プラットフォーム事業につきましては、コンテンツホルダーとの協業によるデジタルコミック等の販売プラットフォーム事業が好調に推移し、増収となりました。

以上により、「モバイルサービス」の売上高は、前年同期（745百万円）比11.2%増の828百万円となりました。セグメント利益では、増収と収益性の改善により、前年同期（80百万円）と比べ12百万円増加し、92百万円となりました。

⑥ その他

その他セグメントにつきましては、著書向けPOD出版サービスの登録者数の拡大や堅調なWebコンテンツ等の制作受託、第1四半期連結会計期間において音楽セグメントからImpress Business Development(同)へ事業移管した書籍レーベル「立東舎」や新たに連結の範囲に含めました㈱天夢人による売上高の増加等により、売上高は前年同期（257百万円）比97.2%増の508百万円となりました。セグメント利益では、増収したものの投資フェーズの事業が増加したことで収益性が低下し、前年同期（7百万円）と比べ17百万円減少し、9百万円の損失となりました。

⑦ 全社

全社区分につきましては、純粋持株会社である当社と、グループの経営管理及び販売／物流管理機能を担う㈱Impress Professional Worksで構成されており、グループ会社からの配当、情報システム等の経営インフラの使用料及びグループ会社や出版社を中心とするパートナー会社の物流・販売管理に伴う手数料収入を売上高として計上し、経営インフラ等の運営に係る費用を負担しております。

全社区分の売上高は、グループ会社からの配当収入の減少等により、前年同期（689百万円）比1.9%減の676百万円となりました。セグメント利益では、減収により、前年同期（8百万円の損失）と比べ32百万円減少し、41百万円の損失となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第2四半期連結会計期間末の資産につきましては、季節変動要因により商品及び製品や仕掛品は増加いたしました。満期保有目的債券の償還や投資有価証券の売却、受取手形及び売掛金の回収が進んだものの有利子負債の返済等により現金及び預金の増加が限定的であったこと、また保有する投資有価証券の売却による減少等により、前連結会計年度末に比べ238百万円減少し12,549百万円となりました。負債につきましては、有利子負債の返済等により、299百万円減少し4,817百万円となりました。純資産につきましては、保有する投資有価証券の評価額の減少によりその他有価証券評価差額金の減少はあったものの、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上があったため、60百万円増加し7,731百万円となりました。

純資産から非支配株主持分を引いた自己資本は7,722百万円となり、自己資本比率は61.5%と前連結会計年度末(59.8%)と比べ1.7ポイントの増加となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況につきましては、季節変動要因によるたな卸資産の増加300百万円による資金の減少はあったものの、税金等調整前四半期純利益463百万円の計上(前年同期比234百万円の増加)や売掛債権の回収による資金の増加383百万円(前年同期比516百万円の増加)等により、営業活動によるキャッシュ・フローは213百万円の資金を獲得しております。(前年同期比162百万円の増加)

投資活動によるキャッシュ・フローは、満期保有目的債券の償還による収入300百万円(前年同期比300百万円の増加)や投資有価証券の売却による収入が263百万円(前年同期比251百万円の増加)あったことで、473百万円の資金を獲得しております。(前年同期比603百万円の増加)

財務活動によるキャッシュ・フローは、有利子負債の圧縮により264百万円の資金が減少(前年同期比394百万円の減少)し、加えて自己株式の取得53百万円(前年同期比53百万円の減少)や配当金の支払82百万円(前年同期比62百万円の減少)により、400百万円の資金が減少しております。(前年同期比510百万円の減少)

以上により、当第2四半期連結会計期間末の資金残高は、前年同期末と比べ899百万円の資金が増加し、4,725百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は、2018年11月5日に、第2四半期連結業績予想の修正を行っております。

第2四半期連結累計期間における経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、アジア市場向けを中心としたSPの受託案件が想定を下回る推移となったものの、既刊書籍の販売やイベント・セミナーの好調な推移に加え、プラットフォーム事業等が好調に推移し、以下に記載した通り当初の予想を上回っております。

なお、通期連結業績予想につきましては、メディア事業においてカレンダーや年賀状ムック等大型季節商品の返品に加えて、SPの受託案件や広告収入等の下振れリスクも懸念されることから、公表済みの業績予想に変更はありません。

連結業績予想（第2四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1株当たり四半期純利益
2018年5月10日発表予想 (A)	6,000	130	300	8.99円
2018年11月5日発表修正予想 (B)	6,074	194	361	10.82円
増減額 (B-A)	74	64	61	—

連結業績予想（通期）

	売上高	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
2018年5月10日発表予想	12,150	200	350	10.49円

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,402,747	4,725,076
受取手形及び売掛金	4,127,313	3,858,560
有価証券	400,000	—
商品及び製品	1,076,852	1,164,886
仕掛品	124,641	360,492
その他	314,004	367,743
返品債権特別勘定	△11,300	△19,800
貸倒引当金	△48,798	△59,904
流動資産合計	10,385,460	10,397,055
固定資産		
有形固定資産	426,861	398,768
無形固定資産		
ソフトウェア	196,034	178,685
その他	14,445	14,445
無形固定資産合計	210,479	193,131
投資その他の資産		
投資有価証券	1,087,015	863,460
破産更生債権等	110,237	110,237
繰延税金資産	194,905	194,905
その他	466,733	485,468
貸倒引当金	△93,579	△93,579
投資その他の資産合計	1,765,312	1,560,491
固定資産合計	2,402,652	2,152,391
資産合計	12,788,113	12,549,446
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,350,727	1,536,750
短期借入金	500,000	350,000
1年内返済予定の長期借入金	201,188	193,809
未払法人税等	89,522	100,356
賞与引当金	161,624	126,490
返品調整引当金	152,758	168,435
その他	1,103,107	953,815
流動負債合計	3,558,928	3,429,656
固定負債		
長期借入金	168,800	76,400
退職給付に係る負債	1,099,793	1,117,273
長期末払金	101,120	104,242
繰延税金負債	185,794	87,815
その他	2,802	2,460
固定負債合計	1,558,311	1,388,192
負債合計	5,117,240	4,817,848

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,341,021	5,341,021
資本剰余金	1,664,508	1,663,443
利益剰余金	1,012,177	1,289,406
自己株式	△723,297	△715,299
株主資本合計	7,294,409	7,578,571
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	420,852	198,847
為替換算調整勘定	55,108	52,224
退職給付に係る調整累計額	△122,633	△107,269
その他の包括利益累計額合計	353,327	143,802
新株予約権	14,704	—
非支配株主持分	8,431	9,224
純資産合計	7,670,873	7,731,598
負債純資産合計	12,788,113	12,549,446

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2017年4月1日 至2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)
売上高	5,782,953	6,074,709
売上原価	3,525,214	3,717,877
売上総利益	2,257,738	2,356,831
返品調整引当金繰入額	26,308	14,736
差引売上総利益	2,231,430	2,342,095
販売費及び一般管理費	2,061,054	2,170,623
営業利益	170,376	171,472
営業外収益		
受取利息	1,520	267
受取配当金	579	1,691
貸倒引当金戻入額	19,849	—
持分法による投資利益	32,300	29,769
その他	8,021	4,102
営業外収益合計	62,271	35,829
営業外費用		
支払利息	4,150	2,968
為替差損	689	583
出資金運用損	4,036	6,104
その他	1,960	3,303
営業外費用合計	10,837	12,960
経常利益	221,811	194,341
特別利益		
投資有価証券売却益	6,496	254,199
新株予約権戻入益	—	14,704
特別利益合計	6,496	268,904
税金等調整前四半期純利益	228,307	463,245
法人税、住民税及び事業税	53,090	101,149
法人税等調整額	—	△418
法人税等合計	53,090	100,731
四半期純利益	175,217	362,514
非支配株主に帰属する四半期純利益	2,062	793
親会社株主に帰属する四半期純利益	173,154	361,721

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2017年4月1日 至2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)
四半期純利益	175,217	362,514
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	27,202	△222,004
為替換算調整勘定	△506	△2,884
退職給付に係る調整額	64,336	15,363
その他の包括利益合計	91,033	△209,525
四半期包括利益	266,250	152,988
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	264,187	152,195
非支配株主に係る四半期包括利益	2,062	793

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2017年4月1日 至2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	228,307	463,245
減価償却費	78,956	72,935
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△21,611	17,479
退職給付に係る調整額の増減額(△は減少)	59,989	15,781
賞与引当金の増減額(△は減少)	2,627	△35,052
返品調整引当金の増減額(△は減少)	19,508	6,236
返品債権特別勘定の増減額(△は減少)	6,800	8,500
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1,742	11,105
破産更生債権等の増減額(△は増加)	23,444	—
受取利息及び受取配当金	△2,099	△1,958
支払利息	4,150	2,968
持分法による投資損益(△は益)	△32,300	△29,769
為替差損益(△は益)	△241	△207
投資有価証券売却損益(△は益)	△6,496	△254,199
新株予約権戻入益	—	△14,704
売上債権の増減額(△は増加)	△132,727	383,285
たな卸資産の増減額(△は増加)	△276,426	△300,292
仕入債務の増減額(△は減少)	97,926	△15,638
長期未払金の増減額(△は減少)	—	3,122
その他	729	△39,884
小計	48,792	292,952
利息及び配当金の受取額	19,547	21,540
利息の支払額	△3,370	△2,888
法人税等の還付額	27,299	2,179
法人税等の支払額	△41,413	△100,190
営業活動によるキャッシュ・フロー	50,854	213,594
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△100,000	—
有価証券の償還による収入	—	300,000
有形固定資産の取得による支出	△26,083	△9,963
無形固定資産の取得による支出	△23,630	△40,734
投資有価証券の取得による支出	△299	△300
投資有価証券の売却による収入	12,250	263,285
関係会社株式の取得による支出	—	△24,500
敷金及び保証金の差入による支出	△8,864	△7,359
敷金及び保証金の解約による収入	663	594
貸付けによる支出	△32,000	—
貸付金の回収による収入	4,867	258
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	43,385	—
その他	342	△7,518
投資活動によるキャッシュ・フロー	△129,368	473,761

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△60,000	△150,000
長期借入れによる収入	300,000	—
長期借入金の返済による支出	△109,404	△114,126
自己株式の取得による支出	△390	△53,787
配当金の支払額	△20,027	△82,711
その他	△338	△338
財務活動によるキャッシュ・フロー	109,838	△400,964
現金及び現金同等物に係る換算差額	△229	△2,599
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	31,094	283,791
現金及び現金同等物の期首残高	3,794,055	4,402,747
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	38,537
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,825,150	4,725,076

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						その他 (注)1	調整額 (注)3	四半期連結 財務諸表 計上額 (注)2
	IT	音楽	デザイン	山岳・自然	モバイル サービス	計			
売上高	2,426,379	886,421	510,492	1,023,853	745,225	5,592,371	257,788	△67,206	5,782,953
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	58,609	△42,556	73,426	124,504	80,760	294,745	7,979	△132,348	170,376

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、出版・電子出版、Webサイト等の受託制作及び出版流通プラットフォームの開発・運営等が含まれております。
2. セグメント利益又はセグメント損失は、調整を行い、連結損益計算書の営業利益と一致しております。
3. 調整額は以下のとおりであります。
セグメント利益又はセグメント損失の調整額△132,348千円には、セグメント間の内部売上高の取引消去△67,206千円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△688,501千円、セグメント間の営業費用の取引消去623,359千円が含まれております。

当第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						その他 (注)1	調整額 (注)3	四半期連結 財務諸表 計上額 (注)2
	IT	音楽	デザイン	山岳・自然	モバイル サービス	計			
売上高	2,472,928	847,734	456,439	1,057,252	828,946	5,663,301	508,411	△97,004	6,074,709
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	105,929	△34,283	21,987	117,680	92,895	304,210	△9,086	△123,651	171,472

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、出版・電子出版、Webサイト等の受託制作及び出版流通プラットフォームの開発・運営等が含まれております。
2. セグメント利益又はセグメント損失は、調整を行い、連結損益計算書の営業利益と一致しております。
3. 調整額は以下のとおりであります。
セグメント利益又はセグメント損失の調整額△123,651千円には、セグメント間の内部売上高の取引消去△97,004千円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△706,765千円、セグメント間の営業費用の取引消去680,118千円が含まれております。

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首より適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。